



井上 道義の 未来だった今より

3月11日が過ぎた。日本人に、世界中の人に、津波の怖さを刻みつけた事件は、どんな人間にとっても避けられない死がいつでもすぐ隣に居ることを気付かせた貴重な体験でもある。

全く意図しない偶然だが、その1周年の日に兵庫県立芸術文化センターでショスタコーヴィチの交響曲の中でも最も色濃く死と対峙した作品、交響曲第14番を振った。3月3日には金沢の県立音楽堂で、また翌4日には関東大震災の後に造られた東京の日比谷公会堂でも、同じ曲を演奏した。

人間は死を恐れる。しかし、死なくして、生はない！ 死なくして喜びも悲しみもなく、忘却もない。永遠に生きるというのは死をも意味する。太陽は生きていけると言えるのだろうか？ 時間さえ永久に存在するという証拠を科学は証明していない。

「死は恐れるべきものでなく人の中

♫
3月11日

に常にすんでいる」というメッセージがその交響曲の中の最後に歌われる。

2人のロシア人の素晴らしい声が熊の様な体格から響き渡る。多分アジアの人間には100年経っても出来ない声量。かの国の人にはシベリアに抑留させた日本人が飢えや寒さで死んでいったことをほとんど教えられてはいないせいか、日本のことが楽天的に好きだ。私見だが知らされてもあまり変化があるまい。なぜなら自国民さえも含むその数の100倍ほどの人々が粛清させられた過去を持っているから。

そんな人々の厳冬は長く暗い。そこからプーシキンもドストエフスキーもチャイコフスキーも生まれた。尊敬しあい仲良くしたい。幸いにして？いま生きている僕たちは、プーチンとも、ロシア人とも、死とも。

(オーケストラ・アンサンブル金沢)
音楽監督

水星探査計画「ベピ・コロノボ」は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)・宇宙科学研究所と欧州宇宙機関(ESA)による国際共同プロジェクトだ。2014年に水星磁気圏探査機と水星表面探査機という2機の衛星を打ち上げ、いまだ謎の多い水星の磁場や磁気圏、内部や表層の総合的な解明を目指している。

我々は、水星磁気圏探査機「MMO」に搭載するプラズマ波動(電波)観測装置の開発に携わっている。宇宙空間は真空

電波で磁気圏